

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
4 応仁の乱	日本中の守護大名が東西に分かれた応仁の乱が11年間も続くなかで、将軍と守護大名の勢力関係が逆転したことに気づくことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1、応仁の乱の流れを年表から読み取り、本時の課題を設定する。 <u>応仁の乱が11年間も続いたのは、なぜか。</u> 2、課題について資料から調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・各守護大名が細川氏と山名氏の東西に分かれて全国的な戦いに広がったから。 ・将軍の義政が政治を行わずに、花の御所で宴会ばかりをしていたため。 ・都も焼け野原になってしまい、幕府自体が政治どころではなくなってしまったから。 ・将軍の力では、守護大名たちの乱はおさえられなくなってきているのではないか。 3、応仁の乱後の社会変化についてつかむ 4、本時のまとめをする。 	<p>イー</p> <p>応仁の乱が11年間も続いた理由を、義政と守護大名の勢力関係に関連づけて考えている。</p> <p><場面> 授業後 <方法> ノートの記述(授業のまとめ)から、応仁の乱が長く続いた理由を、義政と守護大名の勢力関係に関連づけて考えているか分析する。</p>	<p>年表 応仁の乱の関係図 応仁の乱での東軍・西軍勢力図 義政の政治(歴史年表資料)</p> <p>援助 応仁の乱で東軍・西軍と、将軍との関係に注目するように助言する。</p>
		義政の時代には、将軍の力もだんだん弱くなり、守護大名に勝てなくなってきたため、応仁の乱は11年間も続いてしまったのだ。一揆もだんだん起こるようになっていし、武士の政治はどうなるのだろうか。		
5 民衆の成長	室町時代後半に近畿を中心とした地域で一揆が多発したのは、室町時代の農村で自治的な組織ができ、その組織力で支配階級に抵抗するようになったためであることが、正長の土一揆の事実などを通してわかる。	<ol style="list-style-type: none"> 1、室町時代前半と後半の一揆の発生件数を比較して、本時の課題を設定する。 <u>室町時代後半に一揆の発生件数が増えたのはなぜか。</u> 2、資料から、自分の考えをまとめる。 3、課題についての意見を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・農民が借金のために生活が苦しいので一揆をおこすようになってい。土倉や酒屋、寺院など高い利子で金貸しをしてもうけている者が襲われている。 ・畠山両軍の戦いのために田畑があらされ、米を奪われて年貢も払えないため農民は一揆をおこしている。 ・国人も畠山両軍の戦いが不満で、農民と一緒に一揆をおこしている。 4、室町時代後期の山城国で、農民の生活がどのように変わったかを資料から読みとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「おきて」をつくったり、話し合いによって大切なことを決めたり、自治をしている。 5、本時のまとめをする。 	<p>ウー</p> <p>農民が借金による生活苦から土一揆をおこしていること、また、国人と農民が畠山軍によって受けた被害のために、団結して国一揆を結成したことを読みとっている。</p> <p><場面> 活動2・3のなかで <方法> ノートへの記述や発言内容から、農民の立場・国人の立場に立って資料を読みとっているか分析する</p>	<p>「一揆がおきた数(室町時代前半・後半)」 「農民たちの一揆(正長の土一揆)」 「借金の苦しみ」 「国人と農民の一揆(山城の国一揆)」 「国一揆のおきて」</p> <p>援助 農民たちが不満に思うことを、資料のなかから抜き出させ、それをもとに考えるように助言する。</p>
		室町時代後半に一揆の数が増えたのは、借金や戦いにより農民や国人の生活が苦しくなって、金持ちや支配者に抵抗するようになったからだ。一揆をおこすなかで、農民や国人が団結して集落をつくったり、おきてをつくったりして、たくましく思った。		
6 室町文化とその広がり	北山文化・東山文化を比較することを通して、その特色をつかむとともに、室町時代に発達した文化が、現代にも多く伝わっていることに気づき、関心をもつことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1、写真から北山文化と東山文化を比較する。 <u>室町時代に特色の異なる文化が発達したのは、なぜか。</u> 2、金閣・銀閣がつけられた時代背景を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・義満が南北朝の争乱をまとめ、将軍の力がもっとも強くなった時代に栄えたのが、北山文化である。 ・義政が応仁の乱をおさえられず、安らぎを求めてつくったのが、東山文化の代表の銀閣である。 ・文化の変化は、社会の変化と関係しているようだ。 3、「能を楽しむ人々」「山城の国で行なわれた狂言」の資料から、室町時代に文化が民衆の間へも広がったことをつかむ。 4、現代に受け継がれている室町時代の文化について、まとめる。 5、室町時代についての、感想を書く。 	<p>イー</p> <p>室町時代の北山文化と東山文化の特色を、栄えた時代の社会背景や将軍の力と結びつけて考えている。</p> <p><場面> 授業後 <方法> ノートの記述から、時代のできごとをもとに、北山文化・東山文化の特色を説明できているか分析する</p>	<p>「金閣」「銀閣」(写真パネル) 年表 「能を楽しむ人々」(教科書P.64) 「山城の国で行なわれた狂言」</p> <p>援助 義満・義政のおこなった政治を比較させ、わかったことをもとに文化の特色を説明するように助言する。</p>
		同じ室町時代の文化でも、華やかな北山文化と質素な東山文化では、幕府の力や、時代の様子が異なるので、全く特色がちがう。また、民衆も文化を楽しめるようになってきたところが、今までとちがうところだ。		

